

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第4問 (20点)

中野工業(株)の下記〔資料〕にしたがい、当月(5月)の製造原価報告書および損益計算書を作成しなさい。

〔資料〕

1. 棚卸資産有高	月 初 有 高	月 末 実 地 有 高	
(1) 素材	124,800 円	166,200 円*	※ 帳簿棚卸高が182,400円であり、 正常な範囲内で減耗が発生してい る。他は帳簿と実地に差異はない。
(2) 買入部品	192,200 円	193,400 円	
(3) 燃料	8,200 円	9,900 円	
(4) 仕掛品	482,600 円	499,400 円	
(5) 製品	682,410 円	623,970 円	

2. 5月の工場支払高等データ

- (1) 素材仕入高 1,260,000 円
- (2) 買入部品仕入高 1,421,000 円
- (3) 燃料仕入高 242,000 円
- (4) 工場消耗品買入額 18,600 円
- (5) 工場事務員、間接工の賃金給料支払額 724,000 円
- (6) 工場事務員、間接工の賃金給料前月末払額 241,000 円
- (7) 工場事務員、間接工の賃金給料当月未払額 223,000 円
- (8) 水道光熱費当月測定額 34,200 円
- (9) 水道光熱費当月支払額 33,800 円
- (10) 機械減価償却費(年額) 1,242,000 円
- (11) 工場減価償却費(月額) 246,000 円

3. 直接工賃金に関するデータ

直接工賃金は実際消費平均賃率 1,240 円/時間を用いて消費額を算定している。当月の総就業時間 864 時間のうち、直接作業時間は 820 時間であった。

4. 製造間接費に関するデータ

製造間接費は、直接作業時間を基準に予定配賦しており、予定配賦率は、年間製造間接費予算額 17,136,000 円、年間基準操業度 10,080 時間にもとづいて算定する。

5. その他

損益計算書の作成の際、原価差異は当月の売上原価に賦課すること。

第 5 問 (20 点)

(株)くまもとは、等級の異なる同種製品 M、O、T を連続生産している。製品原価の計算方法は、1 か月の完成品総合原価を製品 1 個当たりの重量によって定められた等価係数に完成量を乗じた積数の比で各等級製品に按分する方法を採用している。下記の [資料] にもとづいて、月末仕掛品原価、完成品総合原価、製品 M、O、T の完成品単位原価を答えなさい。月末仕掛品の評価は、先入先出法を採用しており、正常仕損は工程の途中点で発生したため、これを考慮して負担計算を行う。なお、仕損品には 1 個当たり 220 円の評価額があり、直接材料費から控除する。

[資料]

1. 当月生産データ

月初仕掛品数量	120 個	(50%)
当月投入数量	2,070	
合計	2,190 個	
正常仕損量	90	
月末仕掛品数量	300	(80%)
当月完成数量	1,800 個	

※ 完成品のうち、400 個が製品 M、800 個が製品 O、600 個が製品 T である。材料は工程始点で全量投入しており、また、() 内は加工進捗度を示す。

2. 当月原価データ

(1) 月初仕掛品原価

① 直接材料費	146,400 円
② 加工費	100,800 円

(2) 当月投入原価

① 直接材料費	2,376,000 円
② 加工費	? 円
合計	? 円

3. 製品 1 個当たりの重量(単位: g)

製品 M	製品 O	製品 T
300	400	600

4. その他

- (1) 当月加工費は、直接材料費の 145% を予定配賦する。
- (2) 計算上端数が生ずる場合、解答時に月末仕掛品原価と完成品総合原価は円位未満を、各製品の単位原価は小数点未満第 3 位を四捨五入しなさい。